

PRAEVIDENTIA DAILY (12月23日) 特別号

昨日までの世界：原油安でも米株高・金利上昇・ドル高

昨日は、Ali al-Naimi サウジアラビア石油鉱物資源相が、原油が1バレル20ドルへ下落しても減産は利益にならない、と述べたことから原油価格が下落したものの、米株価や米2年債利回りはあまり悪影響を受けずにむしろ上昇したことから、ドルが対主要通貨で総じて上昇する展開となり、ドル/円相場は再び120円乗せとなった。カナダドルは原油安につれて下落したが小幅に留まっている。ユーロ/ドルは欧州時間に1.22ドル台前半から一時1.2272ドルへ買い戻される局面も見られたが、その後の全般的なドル高の中で、再び1.22ドル台前半へ反落した。米経済指標面では、中古住宅販売件数が493万件と前月および市場予想を下回る結果となったが、ドルへの影響は殆どみられなかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.5	+0.03	+0.01	-0.02	-0.01	-0.02	-0.01	+0.4	+0.1	-2.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	-0.02	-0.01	+0.01	+0.03	+0.01	-0.02	+0.5	+0.4	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.3	-0.01	+0.00	+0.01	-0.01	-0.03	-0.02	+0.5	+0.4	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.1	-0.06	-0.05	+0.01	-0.05	-0.07	-0.02	+0.4	+0.6	-1.5
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.3	-0.01	+0.00	+0.01	-0.01	-0.02	-0.02	+0.4	+0.6	-1.5
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.2	+0.00	+0.01	+0.01	+0.00	-0.02	-0.02	+0.4	-2.9	-1.5

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：米国の高成長 VS 低インフレ

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

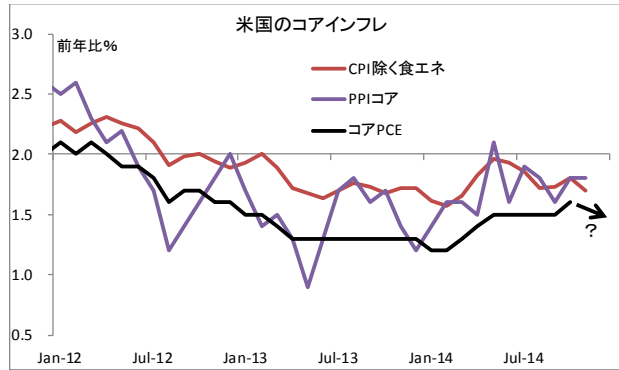
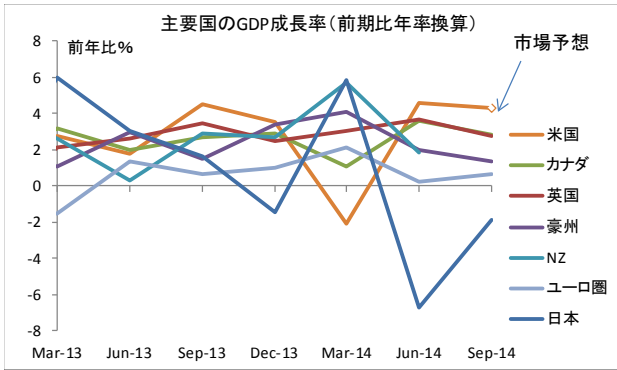
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<b>&lt;本邦休場&gt;</b>				
<b>ギリシャ議会・第2回大統領選</b>				
米11月耐久財受注・前月比	22:30	+0.4%	+2.9%	
同非国防除く航空		-1.3%	+1.5%	
<b>米3QGDP最終推計値・前期比年率</b>	<b>22:30</b>	<b>+4.6%</b>	<b>+4.3%</b>	<b>速報+3.5%、改定+3.9%</b>
カナダ10月GDP・前月比	22:30	+0.4%	+0.1%	
<b>米12月ミシガン大消費者信頼感・確報</b>	<b>23:55</b>	<b>88.8</b>	<b>93.5</b>	<b>速報は93.8</b>
米11月個人支出・前月比	0:00	+0.2%	+0.5%	
<b>米11月コアPCEデフレーター・前年比</b>	<b>0:00</b>	<b>+1.6%</b>		
米11月新築住宅販売	0:00	46万件	46万件	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は本邦休場だが、ギリシャ議会第2回大統領選が行われるほか、米国で非常に多くの経済指標が発表される。ギリシャ大統領選については、17日の第1回投票では連立与党のディマス候補は定数300票のうち160票と選出に必要な200票に遠く及ばず、今回も200票必要だがどの程度支持票が増えるのか未知数だ。大統領選出を確実にし債権者との交渉時間を確保するため、Samaras首相は野党に対してディマス候補を支持すれば2015年末に総選挙を行うという提案をしており、これを受けて、今回200票に届かなくとも、29日の第3回投票での選出に必要な180票に近づけば、目先の債務問題悪化リスクの後退からユーロ下支え要因となる可能

性がある。因みに昨日、この報道を受けてギリシャ国債利回りは低下したようだ。とは言えユーロは ECB 量的緩和導入期待を受けた下落トレンドにあるため、大幅上昇は期待薄だ。逆に第 1 回投票の 160 票から殆ど支持票が増えない場合には、大統領選出に失敗し来年 2 月までに総選挙が行われ、財政再建に消極的な SYRIZA が政権を取りギリシャ債務危機再燃というシナリオが意識され、ユーロは続落しよう。

米経済指標では、やや古い計数だが 3Q GDP 最終推計値が注目だ。速報の+3.5%から上方修正が続き、今回は市場予想通りでも+4.3%と前期の+4.6%に迫る成長率を実現するようだと、米利上げ開始の前倒しが意識され、ドル下支え要因となりそう。他方、リスクとしてはコア PCE デフレーターがあり、既発表のコア CPI のように原油安などの影響がコアにも及び鈍化するようだと、一時的なドル売りとなるリスクがある（下図を参照）。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641